## 第七十六回フォト句優秀作品(29年9月11日)













ザリガニ採りこの瞬間はママ本気 (アキヤ)





寸 評:夏休みのあとなので、入選作を増やしました。

1) 稲妻に蝦蟇柄映えて婿さがし 大越 浩平

腹ばいになって蝦蟇を真正面から撮った努力を買いたい。<mark>蝦蟇柄</mark> という措辞はユニークだが、稲妻と婿探しの関連がわかりにくい。

- 2)空蝉や小糠のような通り雨 中村 晃也
- 3) ブラバンはラッパを降ろし小休止 安藤 晃二

画面も句もきれいによく纏まっている。垂れ下がっている花弁を<mark>ラッパを</mark> 降ろしと巧みに表現した。

4) 天然の映画鑑賞夏木立 池田 隆

朱に染まる空と近景の木立のシルエットの対比は素敵だが、美しい風景 を映画を見るようだとの感覚はやや古いのでは?

5) 大木に道を尋ねて気まま旅 長尾 進一郎

街道の大樹を目印にして旅をする二人組が画面の左端に見える。画面 に派手さは感じないが、大木に道を尋ねての措辞が非常に巧みで作者 の俳句的センスの良さを感じる。

## 6) ザリガニ採りこの瞬間はママ本気 中村 晃也

複数の登場人物の一瞬の動きをとらえた夏休みでのシーン。水面に映 った人物の影がきれいに撮れている。

## 7) この時勢おちおち昼寝できないわ 長尾 進一郎

画面はややまとまりに欠けるが、北朝鮮のTV報道に見入る猫の心境を 代弁した句が面白い。

## 8) ウムそうか親友(とも)の頼みを聞いとるぞ 清水 勝

耳打ちをしている石像を、どこかの国の首相と側近の密談に見立てた。 作品を世相に結び付けて仕上げた腕前は相当なものだ。



今回は清水さんの出題。長野県にある聖湖でのへら鮒釣り風景だ。

- 1) <u>釣り糸の水面をゆらす蝉時雨</u> 新田 由紀子 森に囲まれた静かな湖での釣り風景。湖面を揺らしているのは釣り 糸か蝉時雨か紛らわしいが、全体として雰囲気を感ずる。
- 2) <u>年の先アキアカネらの一休み</u> 大越 浩平 浮子の動きを待っていると竿の先に赤トンボが止まった。静かな 釣り風景を詠っている。アキアカネらでは表現があいまいになるの で語順を替えて、「竿の先一休みするアキアカネ」とでもしたい。
- 3) <u>太公望和竿とウキに金をかけ</u> 下山 健夫 釣りキチが道具に金をかけることは良く知られている。面白い発想 だ。ここも語順を替えて「太公望ウキと和竿にカネをかけ」とする ともう少しスッキリする。
- 4) <u>釣り池やデイサービスに爺集い</u> 池田 隆

デイサービスは介護的な意味が強いので爺が集るかどうか。「集 い来て釣り糸垂れる高齢者」とでもしたら良いのでは?